島から見た宗像

は大島での葬儀には参列しな の島との思いは強く、留守家族 は泊まり込みで行われた。神様 復だけでも大変だったから、漁 かけて夕方着いたという。エン 漁場でもたらされている。

物心 局のかなりの部分が沖 **増えたが、それでも大島の漁獲** った。今でこそ日帰りの漁が 島の かに置き去った白装束の後ろ

島の存在は重要な の吉村作治氏であろう り、と最初に明言したのは、

ていたため、 御用船を、うちの祖先が行なっ 本海海戦僅か せる灯台施設を建設した。日 な目標を作ろうと考え、 この島が、世界遺産の価値 想した軍は、島に灯台のよう 重要なポイン をトウカンと呼ぶなど、個 し夜間でも島の位置を知ら く。この燃料油を運搬する 今でも僕の家の地 となる事を

むなかたNPOマガジン ふらぐ

vol.27

2019年11月20日(年4回)発行 編集/一般社団法人PENTAGON 編集長発行/〒811-3437 福岡県宗像市久原180メイトム宗像 宗像市市民活動・

/執行沙惠·仲西浩一·安東陽子 100940(36)0311 E-MAIL:

る、∃ k 乗 € γ 遼太郎「坂の上の雲」に登場する、∃ k 乗 え 見 見 の 男] に るの 司 馬

る、

日本海戦の

目撃者である。

レむなかた2019

みなさんの参加をお待ちしています。

町村長達の

八知を越える何らかの

が遂に現実になろうとは、その

02年

ロープレとは?

ローカルとプレイを掛け合わせたもので、まちで活動する人や団体が地域課題解決

2019年11月16日~2020年1月25日

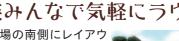




宗像ユリックス

ス芝生広場の「パットゴルフペアチ ケット」をプレゼント!次号のふらぐと一緒 http://pr7.work/0/furagu





トされたパットゴルフ場。人工芝の全18ホールは、気軽 にラウンドできるファミリー コースです。広々とした公園 をながめながらのプレーも また格別です。





[パットゴルフ場]宗像ユリックス(宗像市久原400番地) [営業時間]10:00~17:00(受付は16:30まで)[休場日]月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日) [問合せ先]0940-37-2611

¥() TAKE FREE □ / □ / ■ PENTAGON 宗像

ふらぐバックナンバーはこちらから



https://pentagon67.com

漫画の中に出てくる 事柄や用語をチェッ

今回参考にさせていただいた団体です

参考団体の紹介

子ども支援ネットワーク With Wind

With Windは「まちじゅうを子どもの遊 び場に」をテーマに平成24年に結 成。地域に子どもの居場所をつくる 「プレーパーク事業」の他、中高生の 居場所づくりとして「MUNAKATA BASE」、子どもの遊びや居場所に 関する情報収集や発信、啓蒙活動 などを行っています。活動の様子や開 催地についてはホームページ、または Facebookページをご覧ください。



活動の様子

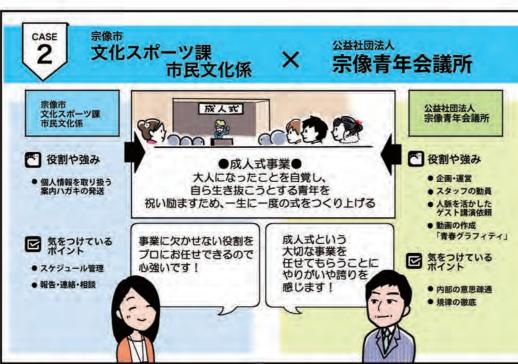
問い合わせ先

TEL / 090-9407-3432 E-MAIL / nobinobi@bronze.ocn.ne.jp

🖳 / 🔲 / 🚹 WithWind

自分たちのまちは 自分たちで

漫画中にある行政と民間団体等に よる事業は「市民サービス協働化 度 | のもとに実施していま す。この制度はよりよい市民サービ スを提供するためにつくられました。 より効果的で効率的な市民サービ スを行うためにどうすればよいのか、 行政だけでなく市民にもその役割を 担ってもらい、「自分たちのまちは自 分たちでつくる」意識を醸成してい ます。市民活動のさかんな宗像市 には、市民がまちづくりに参加でき る体制が整えられているのですね。













おいよりではあります。



市の

メイトム宗像内

piapia



※これらの協働事例は2019年度現在の内容を紹介しています。

お互いの強みを持ち寄って、

相談・共有しながら



がいを見つけてい

たのかま

ナナギ

本来市が行う業務を他に依頼し、

代わりにやってもらう



万人が訪れる赤間宿まつり!そのお祭りを最 祇園祭り、秋の3大まつり、そして2月には2 宿。春は桜祭り、梅雨はあじさい祭り、7月に 近年賑やかさを増している唐津街道赤間

昨年の赤間宿まつりの様子





政2年 川嶋さん:お茶の伊右衛門がCMで同じ寛政 で229年目!老舗中の老舗ですね! しぎょう:川嶋さんこんにちは。勝屋酒造は寛 た酒蔵を取材してきました! 初に始めたのが勝屋酒造さん?地域に開かれ (1790年)の創業ということで、今年

2年と言っていますね。江戸時代後期からにな ります。大正時代に宗像市三郎丸の4人の山 名字が川嶋なのは…? しぎょう:川嶋さんは8代目蔵元なんですよね。 本さんが合名会社を作って法人化しました。

継ぐまでは普通の主婦をしていました。PTAの ラリーマン家庭の一家団欒に憧れていましたね。だ から私はサラリーマンの夫の元に嫁いで、酒屋を かありませんでしたから、小さい頃から普通のサ 根っからの商売人です。家には常に住み込みの蔵 お母さんたちとお茶をしたり、塾でアルバイトを 人や社員、お客様が出入りしてプライベートなん 親は父が酒屋、母が醬油屋の家系で、2人とも り、16年ほど前に私が継ぐことになりました。両 本です。先代の父がいよいよ続けるのが難しくな 川嶋さん:結婚して川嶋になりまして、旧姓が山

> 須賀で読書三昧の毎日を過ごしています。 は母を看るために私がここに残り、夫は地元の横 辞めてゼロから酒造りに加勢してくれました。今 ときに代替わりをして、そのときは夫も仕事を していたこともあります。 50代に入ったばかりの

> > にも商いを頑張っているお店は周辺に何店舗も

きて私自身にも余裕が出てきました。うちの他

あります。どうせならうちの店だけでなく、赤間

て本当ですか? 祭りの前身が、勝屋酒造さんの蔵開きだったっ しぎょう:毎年2万人もの人が訪れる赤間宿

り、蔵開きから赤間宿全体のお祭りになってい 工会が全面的に協力していただけることにな いったそうです。そしてこの数十年ほどは市や商 をはじめて、すこしずつ賑わいの範囲が広がって ど、毎年するうちに知り合いが店の周りで出店 教育大の先生方4、5人しか来なかったけれ 見の明があったのでしょう。初めての蔵開きには 的に蔵開きという文化が根付く前でしたが、先 てはチラシを手配りして回ったそうです。全国 がきっかけです。当時はJRをひと駅ずつ降り 川嶋さん: 4数年前に両親が蔵開きを始めたの

> ですね。そしてこれからも地元の酒蔵として、 になっているこの赤間宿に恩返しをしていきたい に温かく迎えていただきました。だから、お世話

川嶋さん:私は赤間宿にずっといたわけではな

く、長いブランクを経て戻ってきたのに、この地域

赤間宿一体のお祭りとなりました。

しぎょう:これからやっていきたいことは?

アクラブの方にもご協力いただくなど、去年から んです。すると近年オープンした若いお店やシニ かと思い、あじさい祭りをしませんかと提案した 店にもお客さんの出入りがあるようにできない 宿にたくさんの人に足を運んでもらって周辺のお

りを持つてお酒と歴史を伝えていきたいです。

間宿は新しい動きがでてきていますよね。 しぎょう:そんな経緯があったんですね。近年赤

代替わりで赤間宿

17

戻ってきたことです

どこですか?

あなたにとっての文差点は、

ら始めたものなんですが、近年ようやく定着して うのをしています。これは私が8代目になってか たね。うちでは毎年6月「夏の蔵出し祭り」とい **鳴さん**: 昨年からあじさい祭りが始まりまし

Vol. 0

ふらぐ編集部のしぎょうが取材してきました。

宗像のまちで秘かに活動する魅力的な人。 その「ひと」が「まち」と出会い、交わるきつかけ



がくこ 都子さん



業229年、宗像大社の る酒蔵の8代目女将 |きの他にも酒蔵ジャ イトなどさまざまなイ ベントを開催しています。 200年前の梁が残る酒蔵 の見学もできるので、 談ください。

TEL:0940-32-3010

かわしま **川嶋**



大人が本気になるから 子どもは感動する

行って きました」

アンドゥさん

3.t;



子育てに少し安堵してきたアンドゥさんが 地域で取り組む活動を取材してきました。

宗像市民図書館主催の講座をきっかけに結成された読書推進ボランティア団体「理科読 風ぐるま」。半年以上かけて完成させる団体の理科読には、子どもたちへの"ある想い"が込め られていた。その想いの深さにせまる!

科学絵本と体験の融合

▲ 像市では現在30を超える読書推進ボランティア団体が ✓ 活動している。その中に"絵本"と"体験"を結びつける ことで子どもたちに科学のおもしろさを伝える活動をしている 団体がある。「理科読風ぐるま」だ。「くうき」「たね」「かげ」など のテーマごとに、科学絵本の読み聞かせと実験や工作の体験 を融合させた企画を考え、図書館まつりや小学校などで開催 している。

「理科読」とは、科学の本を読んで科学に親しみ、積極的に 理科を学ぼうという趣旨の造語。子どもたちの科学への興味 関心を高め慣れ親しんでもらうことを目的に、全国の図書館や 小学校を中心に取り入れられている。 すごいし

子どもたちに"自分で考える力"を

科学絵本は全体の絵本の数からすると多くはない。「団体の 活動を通して日ごろなじみの少ない科学絵本にスポットを当て、 子どもたちが科学絵本を手に取る機会を増やしたい」と代表の 川上さん。小さい子どもをもつお父さんお母さんの中には「理科 は苦手だったから」と科学絵本を手に取らない方も多いという。 「そんな方にこそお子さんと一緒に理科読を楽しんでもらいた い。そして、子どもたちにこんな楽しい世界もあるんだということ を伝えたい」。

科学絵本を読み聞かせるだけでは「へ~そうなんだ」で終 わってしまう。また、理科の実験をするだけでは「あ~おもしろ かった」で終わってしまう。科学をより身近に感じてもらうために は、科学絵本の知識と理科の実験や工作の体験を結びつけ る必要があるという。理科読では「ここから先はこの本に書い てあるかもしれないよ」と子どもたちの「もっと知りたい」に応えら れる本を紹介する。あえて答えは教えない。子どもたちに"自分

夕回夕∂●の 理科読 風ぐるま 代表 川上 美子さん

で考える力"を身につけてもらいたいという想いが込められて いるからだ。「科学に限らずどの分野でも、本で読んだ知識を 実際に確かめてみようと行動できるようになってほしいんですし と川上さんはいう。

子どもたちの輝く瞳を見るために

宗像市で11月に開催される図書館まつりに向けて、毎年一 つ新しいテーマを考えるという「理科読 風ぐるま」。企画から準 備そして練習の時間まで含めると、完成まで半年以上かかる という。テーマに関連する本を図書館司書の方に選定してもら い、その全てに目を通す。台本を作り、科学的な知識や伝え方 に間違いがないか、現役の先生からアドバイスや監修を受け る。実験や工作キットの準備も全てメンバーが手作りし、さらに メンバーで集まって何度も練習を繰り返す。「理科読に参加し た子どもたちが目をキラキラ輝かせて感動する。その顔を見る のが何より楽しいんです。私たちが本気でおもしろいと思って いることでないと、子どもたちに科学の楽しさは伝わらない。子 どもたちには見抜かれてしまうんですよ」と川上さんは笑顔で 語る。これからどんなテーマが増えていくのだろうか。今から楽 しみでならない。





絵本から発展させた体験



理科読 風ぐるまのメンバー

佐賀県出身。2017年8月、宗像市民図書館主催の「理科 読ボランティア養成講座 |に参加したのをきっかけに、受 講生らとともに団体を結成。現在は、30代から70代まで

幅広い年代のメンバーが活動している。団体名は、団体 が最初に企画した理科読「くうき」で子どもたちが作って 遊ぶ"かざぐるま"から。







部は単に すずりましたこり